

2023 ななさと

㊦るほど ㊦っとく ㊦あ ㊦りくむぞ！ やって伸びる七里っ子！



R6. 3. 5 (火)
第74号
文責：校長 川添
七里小学校

地域でめざす子ども像決定！

以前お知らせしましたように、教育委員会による七里小学校運営協議会の設置を受け、今年度8月より本校もコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）となりました。学校運営の基本方針等についても協議会委員の皆さんと情報共有を図り、承認を得たうえで遂行しています。

今年度運営協議会の中では、「七里地域でめざす子ども像」についても熟議を重ねてきました。12月に実施しました学校アンケートに寄せていただいた保護者の皆様の願いも取り入れながら、下記の3点に決定しました。早速、来年度の学校経営概要の中に組み入れました。

一つ目の「気持ちよくあいさつする子」には、あいさつは、自分の気持ちを言葉にする心の形だと捉え、**あ：明るく、い：いつでも、誰にでも、さ：先に、つ：続けて**あいさつができる七里っ子になってほしいという願いがこもっています。（あいさつについては、大人がお手本になれるように、子どもより先にあいさつする七里にしていきたいという意見もありました。）

二つ目の「七里を愛し、大切にできる子」には、自分たちが住む（通う学校のある）七里地域の人・もの・自然から多くのことを学んでほしい、そして大切に思えるものに出会ってほしいという願いがこもっています。

三つ目の「自分で判断して行動できる子」には、決まっていることをその通りにできることも大事な力だけれど、失敗してもいいので、自分でどうしたらいいか考えて、動ける子になってほしい、それが間違っていたら諦めるのではなくまた別の方法を見つけようとする子になってほしいという願いがこもっています。

保護者の皆さんも、子育ての中でこの3つの子ども像を意識して行ってほしいなと思います。みんなでベクトルを合わせて、七里っ子たちの成長を支えていきましょう。

ていきましょう。

ちなみに、**令和8年度**に本校は**開校150周年の節目の年**を迎えます。運営協議会の中では、驚くとともに本校の歴史を振り返り、「今の状況から200周年はないと思うので、150周年には、何か記念になることができたらいいですね。」という声があがっていました。



入賞おめでとう！

第35回高知県青少年読書感想画コンクール

優良賞 6年 笹岡 美彩姫さん

夏休みに「牧野富太郎」の伝記を読んで描いた感想画です。植物が大好きな牧野博士の様子がよく伝わってきますね。

最上級生への階段を一步上った5年生！



今回のお別れ遠足の行き先が、高知県立美術館ということで、みんなでレクを楽しむ場所の確保ができませんでした。今年はお別れ遠足恒例のレクは無理だろうなと思っていましたが、いやいや5年生はしっかり考えてくれていました。

学校を出発するまでの20分間が自由に使えるということで、「ジブリクイズ」と「6年生クイズ」を作り、玄関ホールで全校を楽しませてくれました。ジブリクイズでは、「ネコバスの足は何本でしょう？」というような難問もあり、大盛り

上がりでした。6年生クイズでは、1年間5名の6年生と一緒に教室で過ごしたからこそ知ったマニアックな問題もあり、6年生も思わず吹き出していました。

何よりも光っていたのは、いつも以上に凛とした5年生の声と態度です。あと2週間で6年生から最上級生のバトンを受け取るんだ！という思いと、もうすぐ卒業する6年生に楽しい思い出をプレゼントしたいという思いがしっかりと伝わってきました。5年生の素晴らしいリードのおかげでみんなが笑顔になって、バスに乗り込みました。5年生、楽しい企画をありがとう！



これから、委員会活動の委員長や縦割り班長から6年生が引退したり、卒業式の会場準備に取り組んだりする中で、きっと5年生の顔つきや言動がどんどんと変わっていくことと思います。楽しみです。



「ジブリ展」の見学が、ちょうどお昼時間だったこともあり、美術館の方もびっくりするくらい貸し切り状態でした。そのためスムーズに見学でき、予定していた時刻よりも45分くらい早く学校に帰ってきました。

そこで、運動場で6年生と遊ぶ時間になり、鬼ごっこなどを楽しんだ子どもたちでした。きっと6年生にとってもいい思い出になったことと思います。